

高次脳機能障がい者にわかりやすい 放送音声の視聴実験

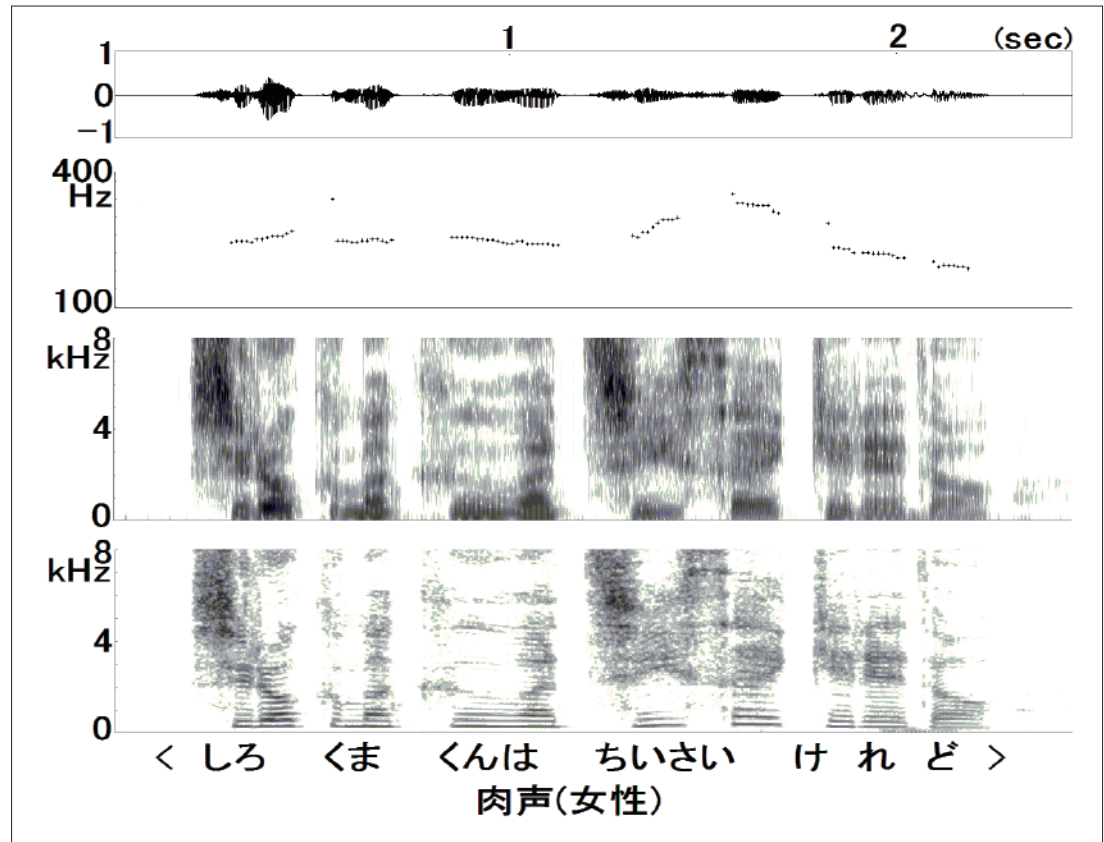
緊急災害放送のような避難情報では、これまでも難聴者に聞こえやすいチャイム音が選ばれたことがあります。有名な例ではNHKや気象庁が使う緊急地震速報です。これは縦波とやや遅れて届く横波の間に地震が到達することを知らせる緊急速報です。地震速報では、「聞こえない」ということがあってはならないという前提で、難聴の方の協力で聞こえやすいチャイム音を選びました。北海道大学で福祉工学を研究しておられる伊福部 達さんの成果です。

難聴者と違って高次脳機能障がい者には、耳の聞こえに問題ないのに、脳に届いたときの言語音がノイズのように聞こえ、人の声だと認識できない人がいます。そのため生涯学習施設の展示解説をはじめ緊急地震速報やその他の災害情報も、たとえ聞こえたとしても内容が理解できないままなのです。高次脳機能障がい者の一部には情報にアクセスする権利があるのだが、技術的に対処されていないと言えそうです。このことは「どのような人にも開かれた生涯学習施設」であるはずの博物館が、美術館、図書館、公民館などとともに、ぜひ解決していかなければならない問題です。

わたしは高次脳機能障がい者の当事者

にお願いして、言語音の認知に関する実験をさせていただいています。マルチメディア DAISY は多くの障がい者にも理解しやすい形式だということが解っていたので、言語音の聴覚実験というより、視覚情報を加えた視聴実験で解りやすい形式を探りました。ただし実験の結果、高次脳機能障がい者にはマルチメディア DAISY 形式の有効性がないらしいとわかって来ました。では、どのような形式の視聴媒体であれば有効なのでしょう。今はそれを探っている最中です。

童話『あなたのことが だーいすき』の一節を女性アナウンサーに朗読していただいた結果を目に見える形にしたもの。解りやすい放送音声を探る実験では、このような音声をさまざまに条件を変えて聞いていただいています。



高次脳機能障がい者にわかりやすい放送音声の視聴実験

代表者: 三谷雅純

財源: 科研費・その他の民間研究費